

2021年11月26日

船舶火災を想定した消火訓練を実施

～ より安全な海上輸送サービスを追求 ～

商船三井フェリー株式会社（社長：尾本直俊、本社：東京都千代田区）は、乗組員による安全かつ的確な消火体制の確認を目的として、11月22日、茨城県大洗港に停泊中の大型フェリー「さんふらわあ ふらの」の船内で消火訓練を実施しました。

今回の訓練は、車両甲板に積載した冷凍電源車からの発火を想定したもので、2019年に国内フェリーに初めて実装された消防用の可搬式圧縮空気泡消火ユニット「18 Unit CAFS」（以下「CAFS」、註）を実際に使用し行いました。その他、消火作業中に負傷者が発生した場合を想定した搬送訓練も併せて実施しました。

本訓練を通し、初期消火を含めた鎮火に至るまでの手順及び各乗組員の役割分担、CAFSの使用方法、負傷者の救護方法等が改めて確認されました。



CAFSを使用した消火訓練の様子



搬送訓練の様子

当社は今後もお客様に安心してご乗船いただけるサービスの提供と安定的な貨物輸送を目指すとともに、船内火災への安全対策に積極的に取り組んでいきます。

（註）「18 Unit CAFS」関連過去プレスリリースは以下をご参照ください。

2019年4月15日付

[「圧縮空気泡消火システム【18 Unit CAFS】導入について」](#)

以上